

1990年 5月 1日(火)～ 5月27日(日)

5月寄贈品コーナー「新資料紹介」より

## レポートと資料

5月の寄贈品コーナーでは、博物館に最近収蔵された自然系の資料のいくつかを紹介します。昨年度購入した隕石、13年間活躍していたプラネタリウムの機械部分、神奈川キノコの会の手で調査が始まった、高麗山のキノコ標本などが主な展示資料です。

また、博物館のスタッフによって昨年度にまとめられた出版物やレポートの基礎データになった資料の一部もご紹介します。博物館の資料はただ保存されているだけではなく、調査や研究の材料になり、また出版物などで発表される情報の裏づけともなっているのです。

### ●ハクビシンの落し物

昨年春に藤沢市大庭の神明社の社殿で奇妙なものが見つかりました。氏子の方が屋根裏に登ったところ、一面に獣の糞が積み重なっていたのです。知らせを受けて調べに行ってみたら、付近の木の下についた爪跡などから、ハクビシンという獣がねぐらに利用していたに違いないという結論になりました。ハクビシンは東南アジア方面から日本に持ち込まれたのではないかと推定されている帰化動物で、神奈川県では最近西部を中心に分布を広げています。

この糞は一部を持ち帰り、ボランティアの大学生の協力を得て、きれいに洗って内容物を取り出してみました。中からは、植物の種子、虫の体の一部などいろいろな物が見つかり、ハクビシンの食生活の一端を知ることができました。

その結果は、県立博物館で発行している「神奈川県自然誌資料」という刊行物にレポートとして発表しました。今回展示したのは、糞の中から発見された動植物の破片で、こうしたものも動物の生活についての貴重な情報源になることを知って頂きたいと思います。

### ●相模川のカ

博物館では相模川関係の資料の収集に努めていますが、1975年から1977年にかけて、寒川町一の宮の川原で灯火による昆虫の採集をしたことがあります。そのうち、ガ類について、ようやく整理がついたので、博物館の研究報告に「相

模川河川敷で採集されたガ類について」というレポートをまとめました。展示したのは、そのもともになったガ類の標本です。

まとめるのに採集してから10年以上の時間が経ってしまった、大きな原因はガ類には分類が難しい種類が多く、専門家による同定を受けなければ正確な種名が判断できないためです。幸い、神奈川県昆虫談話会の神部昭夫さんの協力を頂くことができ、整理にまでこぎつけました。神部さんには数回博物館まで足を運んで頂き、詳しい検討をお願いすることができました。

### ●湘南の植物のニューフェース

博物館では「湘南植物誌1～3」を発行し、湘南地域の植物について詳しい資料を作ってきました。しかし、完全な調査というのは難しいものでその後も何種類かこの地域で新たに記録された種類がでてきました。そこでこれまでの記録を総て集成した「湘南植物誌4」を刊行しました。

ここには、1988年から89年にかけて、新たに記録された約30種類の記録がつけ加えられています。ここにはそのうち代表的な10種類ほどを展示しました。

各地で植物誌に類する本はたくさん発行されていますが、記事にある植物を確認しようと思っても、標本が残されていないことが多くあります。博物館では、その点証拠になる標本が確実に残され、疑問があれば後日再検討をすることができることに大きな特色があります。(浜口)